

からの手紙  
小林鷹之 たかゆき



平成25年度予算について

絆を力に。2013年 Vol.12 [討議資料]

衆議院議員  
自民党千葉二区支部 小林鷹之事務所発行  
(八千代市・習志野市・花見川区)

活動報告



◀第46回衆議院議員総選挙にて初当選いたしました。新人ではありますが、新人だからこそ、既得権益とのしがらみや永田町内のミクロの政局にとらわれることなく、国益に適う政策を打ち出していけるよう、一所懸命汗をかいてまいります。



国会報告

私が配属された3つの委員会を紹介します。予算、税制、金融政策全般を扱う「財務金融委員会」。領土を巡る紛争やTPPなど外交問題を扱う「外務委員会」。そして、東日本大震災からの「復興特別委員会」。新人議員の私にとっては責任の重みを強く感じる委員会ばかりです。小泉進次郎自民党青年局長と2つの委員会で重なっております。若いからこそ、しがらみや固定観念に捉われない姿勢で日々研鑽を積みながら、全力で臨んでまいります！

鷹之ブログ | [ameblo.jp/kobahawk](http://ameblo.jp/kobahawk)

twitter | [twitter.com/kobahawk](https://twitter.com/kobahawk)

ホームページ | [www.kobayashi-takayuki.jp](http://www.kobayashi-takayuki.jp)



小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。平成11年大蔵省(現財務省)入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく姿に危機感を抱き、財務省を退職。第46回衆議院議員総選挙にて初当選。現在38歳。一女の父。



◀町内会の会合にて皆様の国政に対する貴重なご意見を頂きました。



▲医師会新年会にて挨拶。医療の現場の声を教えて頂きました。

▶地元老人クラブ新年会にて挨拶をさせて頂きました。本年が皆様にとって良い年になりますよう祈念申し上げます。



お知らせ

国会見学

小林鷹之事務所では、国会見学の受付もしております。見学をご希望される方は、団体名、代表者名、参加人数(男女別、大人子供別)、参加希望日時、ご連絡先を下記の国会事務所までお知らせ下さい。

ミニ集会

小林鷹之事務所では、小林本人の意見を一人でも多くの方に伝え、また皆様のご意見を聞かせて頂くために、ミニ集会の開催をお願いしております。5名様～10名様であっても小林鷹之本人が伺わせて頂きますので、八千代事務所にお気軽にお電話、FAX、又はメールにて御連絡下さい。

小林鷹之事務所

国会事務所  
〒100-8981  
東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 417号室  
電話：03-3508-7617 FAX：03-3508-3997

八千代事務所  
〒276-0042  
千葉県八千代市ゆりのき台3-3-5 アットホームセンター第2ビル 202号室  
電話：047-409-5842 FAX：047-409-5843  
Email：info@kobayashi-takayuki.jp

## 平成25年度予算について

通常国会が1月28日から始まりました。新人議員の私にとって、初めての本格的な国会。直球勝負を心掛けてまいります。

平成25年度予算が閣議決定されました。過去3年間にわたり経済を縮小均衡させてきた「まず再分配ありき」の考え方と決別し、経済成長によって危機を突破する意志がにじみ出る予算になりました。特に、「復興・防災対策」と「成長による富の創出」に重点が置かれています。

例えば、「復興・防災対策」。被災地に新たに立地する企業を支援する施策や、首都直下型や南海トラフ地震の可能性を踏まえた事前防災に力を入れた「命を守り切る予算」としてはいます。「経済成長」については、再生可能エネやiPS細胞の研究開発の支援、メタンハイドレートの資源開発の推進などによって民間投資を喚起します。我が国の「可能性に挑戦する予算」です。また、地域の主役である中小企業には、事業再生を含めた経営支援や資金調達支援を行う「現場から日本を元気にする予算」です。勿論、待機児童解消や領土・領海を守るための海上保安体制の強化など、「暮らしの安心

を確保する予算」でもありません。

この他、生活保護や公務員人件費など、歳出分野の見直しによって、前政権下で続いた借金が税収を上回る異常な姿を4年ぶりに脱しました。

今後の課題としては、まずは予算の早期成立・執行です。円安や株高など、期待感によって金融市場が下支えされている間に、予算を迅速に執行し、実際に人や物を動かして实体经济にまで効果を波及させなければなりません。

もう一つは、財政リスクの管理です。確かに、前政権下での予算に比べれば、引き締まった予算です。しかし、依然として我が国の財政事情は先進國中、最悪の水準。来年度予算を家計にたとえると、月収36万円の家庭が毎月77万円を支出する計算になります。うち19万円が住宅や車のローンの支払い。地方の私立大学に通う子供への仕送りが14万円。同居する親の介護・医療費が24万円。妻に平身低頭でヘソクリから月3万円を捻出してもらっても月36万円の新たな借金をしなければなりません。まさに、国の台所は火の車です。こうした中で、経済成長を実現し、税収を伸ばすことは当然のこと。しかし、同

時に、欧州経済が最悪期を脱するなど、世界経済に明るい兆しが見えつつある中で、いずれ訪れる金利上昇局面に備えた出口戦略までをも見据える姿勢が政治家には求められています。約1000兆円の借金を抱える中で、金利が1%上昇すれば、単純計算で10兆円の利払い費が増えます。消費税率にして4%分！金利上昇により国債価格が下落すれば、それを保有する金融機関に含み損が生じ、企業や個人への融資に慎重になります。景気回復への冷や水となりかねません。

「公共事業＝悪」という安易なレッテル張りには与しません。が、復興・防災対策に名を借りた費用対効果の低い事業が安易に潜り込める隙を作ってはなりません。年金や医療についても、子や孫の世代に対する過度なしわ寄せを解消する方向で見直しをすべきです。今の財政状況は決して民主党政権だけによってもたらされたわけではない。過去の自民党にも大きな責任があった。だからこそ、問題を解決する責任も自民党にある。責任政党の一員として信念に基づいて行動してまいります。

平成二十五年二月吉日  
衆議院議員

小林 鷹之